

★国際レッサーパンダデー
～レッサーパンダを知ろう！～★

開催日時： 9月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝)
各日 13:00～14:00

集合場所：レッサーパンダ舎前
参加費：無料(別途要入園料)

毎年9月第3土曜日の「国際レッサーパンダデー」にちなんで、今年9月15日(土)～17日(月・祝)に、イベント「レッサーパンダを知ろう！」を行います。

当園でも、とても人気の高いレッサーパンダですが、実は、絶滅危惧種に指定されている動物です。

そんな生息状況を心配して、アメリカのレッサーパンダ保全団体の「Red Panda Network」が、世界各地の動物園でレッサーパンダの啓発活動を行おう！と提唱してできた「国際レッサーパンダデー」。

当園のイベントでも、レッサーパンダの生態や、野生での生息状況などについて、飼育スタッフが解説します。

私たちは、これからのレッサーパンダの為に何が出来るのでしょうか？

そんなことについても、一緒に考えてみましょう。

事前申し込みなどの必要はありませんので、どなたでも参加できます。

※動物の体調により、イベント時間の変更またはイベントを中止する場合があります。

森の仲間たち



「到津の森公園」事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 9月号 2018年

発行・編集「到津の森公園」「森の仲間たち」18年9月1日発行 通巻187号

動物愛護デー

到津の森公園

9月23日(日・祝)

9:00～18:00

※営業時間を1時間延長して18時まで開園！

《入園料・無料》

この日は、子どもから大人まで、入園料無料でご入園いただけます

駐車場・遊具利用・エサやりは、通常通り有料となっておりますので、あらかじめご了承ください。



この日は、動物愛護センターや北九州市獣医師会などによる多数のイベントが催されます。

☆～動物慰霊祭～☆

9:30～(式典は10分程度)

「郷土の森林(もり)動物慰霊碑」前にて、昨年の慰霊祭以降、これまでに当園で亡くなった動物の冥福を祈り、献花します。

ご来園の皆さまも、ぜひご参加ください。

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問合わせ下さい。

極暑としか言いようのない日々。その中でも、朝晩には、やっと近づいてくる秋を感じる9月となりました。

豊穰の秋にはまだ早いけれど園内の草木には、小さな実りの兆しが現れています。野性の生き物にとって何よりの生命の綱、私達にとっても自然からの賜り物は春の山菜のように、大きな楽しみであり、時には生きてゆく糧となった事もあるのでしょうかね。

おばさんの子供時代には、野山に成り物を見つけに出掛けたもの。口に入れる以上に見つけた時のトキメキは忘れられません。その名残りはこの町の中の園内にもまだ見つけることができますよ。

たとえば「クリ(栗)」古代から栽培され、現代までに、様々な品種が作られ、接木苗として植木市に並んでいます。でも人々の嗜好が変わったのか、昔よりクリの実の売られる量は減っている気がします。

山の栗を枝から落とし、靴で踏んでイガを外し、ポケットに入れた時の嬉しさ。小型の実のシバグリは、これまたキメの細かい果肉で、家に持って帰るのが楽しみでした。むき栗と餅米でおこわにしてもらった、独特の風味と艶は忘れられません。今では友達に送ってもらう岐阜中津川の「栗きんとん」という名の実を茶巾絞りにした和菓子が年に一度の楽しみとなっています。

また夏に咲く白い花が可愛いシャシャンボの黒紫色の実、日本のブルーベリーと呼ぶ人もある野性のデザートもありますよね。秋の陽を浴びて小さな丸い実が甘く熟すアキグミ。初夏のグミ程の渋みはなく、見た目にも愛らしいもの。

到津の森公園内「郷土の森」と呼ぶには、あまりに小さなこの森の散歩道。クリ・シャシャンボ・アキグミ以外にも秋の実りを見つける事ができますよ。

文：花咲くおばさん

花 曆 長 月

森のなかま・ゴシキセイガイインコ

まだまだ残暑が続いていますね～！

また一段と暑かったこの夏の最中、ゴシキセイガイインコ舎では巣箱の中で小さな雛が誕生していました。

誕生したのは6月の半ば、それから雛が巣立つまでの約2か月、雛は巣箱の中で親鳥から餌をもらい成長し、ようやく巣立ちました！

孵化したばかりの雛は体重5gほどしかありませんが、巣立つ頃には150g程になり大きさは親鳥とほとんど変わりません。大きな体をしています、餌はまだまだ親鳥からもらっています。

親鳥との見分け方は目の色と嘴の色。雛は目、嘴とも黒くまだまだ幼さがのこりませんが、成長とともに目の色も嘴も赤くなります。

ピーピーと鳴きながら親鳥に餌をおねだりしているほほえましい様子がみられるかも♪

今だけのゴシキセイガイインコの子育ての様子をぜひごらんください。



飼育展示係 小林 弥生